

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	未利用木質資源活用推進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	林務課			1	6	2	2	26	4	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり				包含する細々目	1	7	1	5	17	2	
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等		森林・林業基本法、伊那谷地域森林計画、林業・木材産業構造改革プログラム、第6次緊急間伐総合対策、バイオマス・ニッポン総合戦略、バイオマスタウン構想、地球温暖化防止吸収源10ヵ年対策、飯田市森林整備計画				

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	ペレット製造施設等関係者、市民 市内公共施設等	ペレットストーブ導入施設数(台)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
		ペレットボイラー導入施設数(基)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	1					
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	林地残材や間伐材、支障木などの未利用木材の有効活用と販路拡大を図る。	木質ペレット生産出荷量(t/年)	18目標	200	最終目標	
18実績				19目標	500	↑
23目標			800	23実績		最終目標達成年度
18目標				最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	林地残材や間伐材、支障木などの未利用木材から生産される木質ペレットを燃料とするペレットストーブ及びペレットボイラーを導入し、化石燃料からバイオマス燃料への転換を図るとともに森林資源の活用を促進させる。林産業関係者との連携による需給拡大について、飯田下伊那地区で唯一の木質ペレット生産施設とも連携し、意見交換などを通じて販売戦略に取り組み、有効活用と販路拡大を目指す。	18年度の実績 木質ペレットボイラー導入に向けた取り組み 飯田市南信濃 かがらの湯 1基 導入したペレットストーブ・ボイラーを活かしたPR・啓発活動		0
19年度計画 木質ペレットボイラー導入 飯田市南信濃 かがらの湯 1基 導入したペレットストーブ・ボイラーを活かしたPR・啓発活動			1	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源			
事業費計(A)		0	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 200	19年度 150
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	715	536
	トータルコストA+B	715	536

特定財源内訳や補足事項
環境と経済の好循環のまちモデル事業(国2/3)、森のエネルギー推進事業(バイオマスの環づくり交付金(国1/2)、強い林業・木材産業づくり交付金(国1/2))

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額を高める活動をする	林業生産額(億円)	現状値	7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	7.5
	経済的自立度(%)		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	60	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
間伐材や林地残材は建築材としての活用が少ないため、チップ材として利用されているが、さらに燃料として付加価値をつけて利用を促進し、森林資源の有効利用と林業活性化を図るため地元林産業の衰退による地域材供給低下と森林の荒廃を打開するため地域内産業としての林業活性化や環境と経済の好循環のまちなモデル事業の目的である環境保全をバネにしたまちづくりを推進するため、木質ペレットの消費拡大を図り、二酸化炭素の削減と環境学習の先導的モデルとするため。	21世紀環境プランの実行計画である新エネルギー省エネルギー地域計画が策定され、環境目標を達成するためさらに本事業の重要性が増した。特に林業関係者等地域産材利用講習会等とともに林業関係者等が、行政に期待するところが大きくなった。	

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 木質バイオマスは、カーボンニュートラルであり、二酸化炭素の削減につながる。豊富な森林資源を有効に活用することが林業活性化につながるため	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 設置箇所が少なく、今後販売戦略と用途拡大でさらに向上
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 公共施設で導入可能な施設が限定されていることから、今後民間事業者や一般家庭を開拓すべきだが、初期の段階では妥当。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 影響あり (その理由) ペレット製造が始まったばかりであり、地域内での需要拡大が必要不可欠。木材産業の衰退はしいては森林荒廃につながる
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 普及推進が必要			(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 新エネルギー推進事業環境対策として必要だが、主たる目的は地域産材のマーケティング力の機能強化
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由) 林業木材産業は飯田市の重要な産業である。資源循環型社会の実現に向けた取り組みを具体化するため、民間の設備投資がまだまだ冷え込んでおり、ペレットの供給先となる需要拡大に関与することが必要		効率性評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
		公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 地域材利用普及は市民全体に恩恵がある。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<p>実施年度 具体化</p> <p>公共施設での大口需要を確保しながらも、民間需要を喚起していく情報発信や広報活動を積極的に行う。南信バイオマス協同組合との意見交換を積極的に行った結果、需要を拡大するための戦略(燃料となるペレット価格の安定化と販売先の開拓)について、徐々に広がりつつある。木材産業が地域内産業として活性化するためや、間伐材の用途拡大のため林業木材産業関係者とも連携を図るようにした。</p>
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	設置後の効果検証と場所の精査(設置箇所に応じた機器の選定とペレット利点の説明責任)

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	